CFO LEADERS SUMMIT 2026 | 2026.11.15

これからの経理・ファイナンスキャリアとUS-CMAの価値

なぜ今、US-CMAが求められるのか



セッション終了後の登壇者の皆さま

2026年11月15日、東京国際フォーラムで開催された「CFO LEADERS SUMMIT 2026」において、IMA（米国管理会計士協会）のセッションが行われました。経理・ファイナンス人材に求められる役割の変化と、US-CMAの学びがキャリアや実務にもたらす可能性について、登壇者がそれぞれの経験を交えて議論しました。

報告の先へ。数字を意思決定につなぐ専門性を。

マイク・デプリスコ氏
IMA プレジデント兼CEO

新改 敬英氏
熊本学園大学大学院 会計専門職研究科 教授

小西 晋也氏
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
シニアディレクター

ニナ・マイケルズ＝キム氏
IMAグローバル理事会 理事（2025–2028）

小野 敦志氏
マネーフォワードコンサルティング株式会社
プロダクトマネジメント部 部長

01 THE SHIFT

財務報告を土台に、未来の意思決定を支える

企業が資本効率を重視し、迅速かつ的確な経営判断を求めるなか、経理・ファイナンスの役割も広がっています。セッションでは、正確な財務情報の集約・報告の重要性を維持しつつ、経営戦略と財務データを結びつけ、将来の判断を支えるFP&A（Financial Planning & Analysis）やビジネスパートナリングへの期待が示されました。

CFOに求められるのは、「守り」をおろそかにすることではなく、信頼できる報告を基盤に「攻め」の価値創造にも貢献すること。現場や経営層と信頼関係を築き、数字の背景を理解したうえで、選択肢や示唆を届けることが重要になります。



会場でのパネルディスカッション

02 PORTABLE EXPERTISE

会社や国を超えて活かせる専門性

会社中心の育成から、仕事やスキルを軸としたキャリア形成へ。そうした変化のなかで紹介されたのが、組織や国が変わっても共有し、活用できる「Portable Expertise」という考え方です。

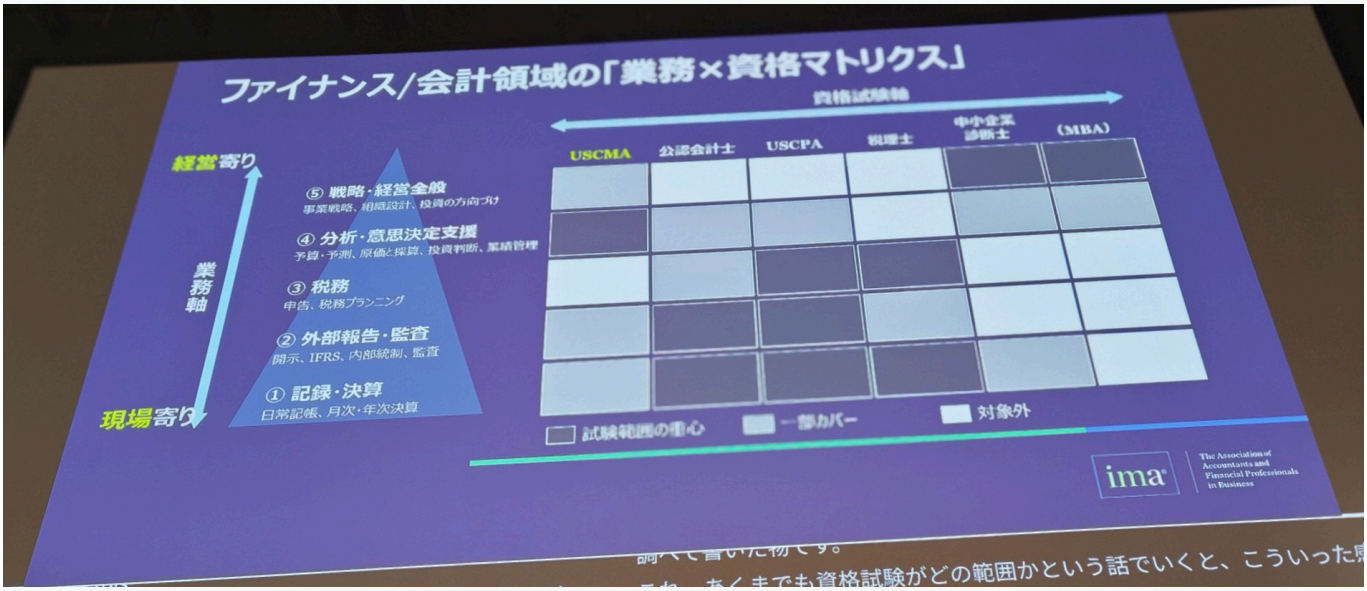
US-CMAは、管理会計やファイナンスの知識を体系的に学び、専門性を示す一つの手段として位置づけられました。デプリスコ氏からは、グローバルな専門性の持ち運びや、ネットワークの重要性についても話がありました。

> **学びを実務へ**　資格の取得だけで終わらせず、分析、意思決定支援、ビジネスとの対話に結びつけることが、専門性の価値を高めます。

03 US-CMA IN CONTEXT

ファイナンス専門分野における US-CMAの位置づけ

セッションでは、ファイナンス・会計業務を「記録・決算」「外部報告・監査」「税務」「分析・意思決定支援」「戦略・経営全般」の5つに分け、各資格・学位の学習領域を整理したマトリクスが紹介されました。



セッションで紹介された「業務×資格マトリクス」

この整理では、US-CMAは特に**分析・意思決定支援**を中核とし、予算・予測、原価と採算、投資判断、業績管理といった、経営判断に近い領域に重点を置いています。一方、記録・決算や外部報告、戦略・経営全般にも一部関連する領域があります。

公認会計士やUSCPA、税理士などと比べた際の特徴は、資格の優劣ではなく、**何を中心に学び、どのような役割で活かすか**にあります。US-CMAは、財務報告などの基盤の上に、将来を見据えた分析や意思決定支援の視点を加えたい方にとって、一つの選択肢といえるでしょう。

> マトリクスは、各資格・学位の試験・学習範囲を登壇者が概念的に整理したものです。実際に担える業務や各分野の重なりは、個人の経験などによって異なります。

04 CAREER & PRACTICE

登壇者の経験から見る、US-CMAの活かし方



マイク・デプリスコ氏


ニナ・マイケルズ＝キム氏


新改 敬英氏



小野 敦志氏



小西 晋也氏

マイク・デプリスコ氏は、IMAには12万人以上の会員がいると紹介。国境を越えたネットワークを活かしてベストプラクティスを共有し、互いのスキルやマインドセットを高められると述べました。

新改敬英氏は、アイルランドの企業でFP&Aに携わった経験を振り返り、USCPAの知識と実務で必要な領域には一部重ならないところがあったと紹介。US-CMAの学びは管理会計の実務との親和性が高く、能力を示す手段になると述べました。

ニナ・マイケルズ＝キム氏は、上司の助言をきっかけに資格を検討し、子育てと両立しながらUS-CMA取得に挑戦した経験を紹介。当時のFP&Aマネジャーとしての業務と学習内容が重なっていたことにも触れました。家庭とキャリアを両立しながら専門性を磨こうとする女性にとって、示唆に富むエピソードです。ファイナンスコントローラーとして責務を広げ、その後のコンサルティングや人材育成にもつながるキャリアの土台になったと語りました。

小野敦志氏は、外部報告を中心とする財務会計の視点に加え、US-CMAを学ぶことで、分析・意思決定・戦略支援へと視野が広がったと説明しました。US-CMAには独占業務はないものの、学んだことを形にして自身の専門性を示せること、知識やスキルを継続的に更新する機会となることに意義があると紹介しました。さらに、IMAを通じて社外の人材との交流が広がることの有用性にも触れました。

小西晋也氏は、USCPAやCIAで培った開示・内部統制の視点に、US-CMAによって判断を前に進める力が加わったと紹介。課題を的確に捉え、経営の期待に応えるための素養につながったと述べました。また、外資系企業ではキャリアアップのために2〜3年に一度ポジションが変わることもあり、継続的なスキル向上が必要だと説明。部下にもUS-CMAの取得を薦めており、変化に応える専門性を培ううえで有効だと語りました。

知識を、価値に変える。

AIによって知識にアクセスしやすくなるなか、学んだことを「なぜ」「どう使うか」を考え、事業と人に向き合うことが重要です。US-CMAの学びを実務と結びつけ、継続的な成長や新たなつながりにつなげていく——セッションを通じて、そうしたキャリア形成の可能性が共有されました。

イベント公式：CFO LEADERS SUMMIT 2026 | IMA Japan Chapter
記載の所属・役職は開催時点。セッションの内容は発言を要約したものです。